

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400137		
法人名	社会福祉法人常盤福祉会		
事業所名	グループホーム万葉堀米の里		
所在地	栃木県佐野市堀米町1270-6		
自己評価作成日	平成28年10月21日	評価結果市町村受理日	平成28年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年11月8日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は東武線堀米駅に隣接しており、遠方からお越しになるご家族様には交通の便がいい。法人内には様々な形態の事業所があり、万葉を利用したいとお申し出のあったお客様は必ずどこかの事業所でお受けできるよう、他事業所の稼働状況を把握し、担当者と連携を図っている。日々変化のある利用者の状況をその都度把握し、出来る事出来ない事やわかる事わからない事を見極め、過剰な支援を避けて残存機能を活かすよう努めている。68歳から97歳までの幅広い年齢の入居者がおられ、それぞれの年代に合う話題や興味のある事柄等を日頃の会話から情報を得ている。それらを元に少しでも張りのある生活を送れるよう、職員全員で支援にあたっている。

当事業所は、交通の便が良く、近隣に住宅地や公園等がある自然豊かな場所に位置している。母体法人は多くの事業所を運営し、それぞれの連携のもと、利用者にあった支援を提供している。管理者、職員は常に利用者一人ひとりに合ったサポートを心掛けている。利用者が住み慣れた場所で自分らしく暮らせるよう、意向を家族と共有し、ターミナルケアを率先して行う構えがある。人事考課の実施の他、職員全員が様々な研修に参加するなど、就業環境も整っている。職員の介護の質の向上を重視し、日頃の業務を振り返り、やりがいに繋いでいる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の基本理念を共有している。一、私たちはお客様の満足をすべてに優先します。一、私たちは一人ひとりの生活や思いを大切にします。一、私たちはプロとして心をこめて行動します。という理念であり、実践に繋げている。	法人理念を全体会議において唱和している。管理者、職員は同じ意識を持って理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1階の小規模多機能で地域支援事業を実施しており、その際は2階グループホーム利用者も参加している。参加人数も少しずつ増えており、交流の場となっている。広報誌が創刊になると回覧で地域の方に見ていただいている。	自治会に加入し広報誌創刊号を回覧したり、地域支援事業として、そば打ちや、バーベキュー大会、餅つき等を行っている。近隣の保育園児の訪問や踊り等のボランティアの訪問があり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型の事業所としてこういった事は大切な役目だと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度開催している。施設での虐待事件が多く報道された時は事業所での虐待に対する取り組みを議題にしたり、会議の時間を利用して避難訓練も行った。	運営推進会議は2カ月に1度、家族・民生委員・町会長・市職員・消防団長等の参加により開催している。事業所から支援状況等の報告をし、参加者から素直な意見や要望等があり、協議を重ねながらサービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員が運営推進委員になっている。10月19日実地指導があり、改善点等指摘していただいた。他県から入居の問い合わせがあった場合には、市に相談し協力いただいた。	介護保険更新時等に、ケアプランに対する指導を受けたり、利用者に対する相談にアドバイスをもらうなど、連携を密にしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体安全対策委員会を中心にグレーゾーンと言われる不適切なケアについても日常的に話し合う機会を設けている。委員会や全体会議での研修も実施している。スピーチロックにならないよう声掛けにも十分注意している。	身体安全対策委員会において、年1度実例を挙げ、改善点について考える研修等を行っている。職員は身体拘束の内容やその弊害を理解し、利用者の身体状況や精神面の不安等にも考慮しながら安全に過ごせる支援に取り組んでいる。日中は玄関への施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体安全対策委員会の活動の中に虐待防止についての取り組みもある。委員を中心に言葉遣いに注意したり不適切な態度も虐待に繋がると考え利用者に接している。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学んだり、活用する機会がなかなかない。今後必要となる場合も想定して研修等参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居の際に行っている。契約書とともに重要事項説明書も用いて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会の際には話をうかがうようにしている。ご意見箱も設置している。年1回の大きなイベントである万葉フェスティバルの際はご家族にご案内を送付し、参加している。	利用開始時に重要事項説明書を用いて、職員や外部の苦情受付機関にも意見の申し出ができることを説明している。年1回のイベントに参加してもらい意見を聞いたり、日頃の来訪時にも意見や要望等が表しやすい環境づくりに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2～3カ月に1度ユニット会議を行い、月に1度リーダー会議を行っている。リーダー会議には小規模多機能のリーダー、ケアマネと施設長も参加しており、ユニット会議での意見や要望などを提案している。	月に1度リーダー会議と2～3カ月に1度ユニット会議を行い、意見や要望、提案等が表せる環境整備に努めている。管理者は利用者と職員の馴染みの関係から生まれてくる気づきやアイデアを運営に取り入れたり、研修で学んだ事を他の職員に指導するなど、職員の質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施している。日頃の業務に対する振り返りを行う事で次の目標が見つかり、やりがいに繋がっている。福利厚生にも力を入れており、職場環境の整備に努めているといえる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が様々な研修に参加出来るようにしている。法人内でも全体会議で研修を行っている。認知症介護実践研修受講者もあり、研修で学んだ事を他職員に指導し、介護の質を上げるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際等に、情報交換や交流を図っている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際ご本人から話しがうかがえない場合は、それまで利用していたサービス事業所やケアマネから情報を得ている。その情報を元に支援する事でご本人が安心出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際はご家族とよく話し合い、ご本人に関する事や家族関係等についてももうかがっている。またご本人とご家族との関わりについても詳しくうかがい、支援の参考にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの受け入れが適当でないと考えられる場合は、法人内に様々な形態の事業所があるので、どこかの事業所で受け入れが出来るよう各部署の担当者と連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者として敬い、いつも助けていただいている。お互いに「ありがとう」や「すみません」といった言葉を交わし、感謝の気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には日々の様子を細かくお伝えしている。ご家族に変化にも気を配り、失礼のない範囲でお話をうかがい、利用者との関わりについて配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊等は特に制限はない。利用者の中には施設にいる事を知られたくないとおっしゃる方もおられ、何か方法がないかとご家族に相談したケースもある。	家族の協力を得ながら、馴染みの場所や人との関係継続の支援に努めている。馴染みの店に職員と共に外食にでかけたり、年賀状のやり取りを支援したりと、関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い出来る事やわかる事に差がある皆さんが共同生活をしている。職員の関わりがなくても食事の際等声を掛け合ったり、片付けの手伝い等出来ている。度が過ぎる場合は職員が関わり、トラブルにならないよう注意している。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやり取り等行っている方もおられる。他施設に移った方は、面会に訪れる事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が重度の方やあまりご自分から話しをされない方でも「何か食べたい物はないですか?」といった簡単な質問から入り、会話を進めていくと本人の思いがわかるような言葉がある。その言葉から思いを汲み取り検討している。	日々の関わりの中で、表情などから察し、声掛けをしている。意思疎通が困難な利用者には無理強いせず、会話を進めて、表情から真意を推し測り思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご家族から生活歴等うかがい、把握に努めている。ご本人からお話をうかがえる場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々利用者に大きな変化はないが、昨日出来た事が今日は出来ない、今日理解出来た事が明日はわからないといった事がある。今の時点でどうなのかを把握し、混乱する事なく生活出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実地指導で介護計画書が職員主体になっているのでは、との指摘があった。生活を一般的に捉えるのではなく、利用者の視点で物事を細かく捉えた計画書の作成に取り組んでいる。	利用者及び家族のニーズを踏まえ職員会議において介護計画を作成している。見直しは6か月毎としているが、状態に応じて随時行い、家族等にも報告をして了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は出来るだけ細かく、その時の状況がわかるよう記入している。主観的にならず、客観的に捉え文章にしている。申し送りや会議の場で情報を共有し、実践に繋げている。課題となるような事は計画の見直しの際活用に活かしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人事考課に「現状打破」という項目がある。9名の利用者のご家族がおられれば9通りのニーズもあると考えられる。個別対応を徹底し、可能な限りニーズに対応していきたい。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1度近隣の保育園を訪問し、園児と交流する機会がある。地域の女性の方が中心となって活動しているグループがボランティアに来て下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入居前からのかかりつけ医を継続していただいている。様々な理由から主治医を変更する場合は対応している。基本的に受診はご家族にお願いしているが、必要があれば職員が同行したり往診に来ていただく事もある。	月1回協力医の往診があり、職員が受診支援している。かかりつけ医への受診や眼科等の専門医への受診は家族対応としているが、受診結果の報告等、情報を共有し、薬品等は事業所にて管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階小規模多機能の看護師と連携をとり、医療的な処置が必要となった場合には来ていただいている。日常的に医療的な行為が生じた場合は、指導を受け、介護職でも可能な限り行うようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	佐野市医師会病院が協力医療機関となっているが、他の病院に入院する場合もある。入院の際はご本人についての情報を伝え、経過観察しながら状態を把握して、退院後の受け入れについても病院関係者とよく話し合い、早めの退院が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても医療的ニーズがあまり必要ない場合は、そのままの生活が継続出来るよう支援している。ターミナルに関しては、主治医、家族と話し合い方針を決定している。主治医の協力があり、ご家族のご希望もあれば看取りも行っている。	ターミナルケアに関して主治医、家族と話し合い看取りを行っている。今後も家族の希望において、看取りを行っていく方針である。	随時、家族等と意志を確認しながら看取りに取り組んでいるが、重度化に伴う意思確認書や同意書等の作成のもとで支援していくことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な対応は出来る。AEDを用いた救命救急に関する研修を受講した職員もいる。各利用者の日頃の状態を把握し、急変に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。火災の際はベランダに避難して救助を待つよう消防から指示されている。各利用者の避難方法についてもリーダー会議等で検討している。運営推進会議でも議題に上がり、地域に協力をお願いしている。	2階からの避難方法について、運営推進会議において議題に上げて検討するとともに、地域に協力を仰いでいる。夜間想定訓練について、今後実施する構えがある。備蓄の確保はしている。	避難誘導時に実際に地域の人々の協力が得られるよう、地域住民に避難訓練に参加してもらったり、職員連絡網に地域代表者を組み入れる等の取り組みに期待したい。

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な物の言い方をしない、「だめ」と言わないような声掛けを心掛けている。相手の立場に立ったり相手の気持ちになって物事を考えて対応するようにしている。居室に入る際のノックや挨拶、排泄時ドアを閉める等基本的な事も忘れず行う。	利用者の立場に立った声掛けや、居室に入る際のノックなど、プライバシーを損ねない対応に心がけている。利用者の写真の使用等は家族の了解を得るなど、個人情報の保護にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	疑問形で物事を尋ねたり、おやつを2種類用意して選んでもらったりする事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな決まり事はあるが、必ずしもそのとりにしなければいけないわけではない。各自のペースで生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所に訪問サービスをして下さる理美容店があり、月に1度来ていただいている。ご希望があれば利用出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は利用者と職員一緒にしている。食べ終わるとほとんどの方が茶碗や皿を重ねたり、使用したおしぼりでテーブルを拭いて下さる。片付けや食器洗いを手伝って下さる方もいる。	食材・献立等は委託し、利用者の食べたい食材等は、職員が利用者と買い物に行くこともある。味噌汁やご飯の用意のほか、片付けや食器洗いを手伝う利用者もいる。職員の介助のもと、会話をしながら一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託先の献立を提供しており、栄養バランスやカロリー計算も整っている。好きな飲み物を提供したり、食べやすい形態での食事提供や、使いやすい器やスプーンを使用する事で自己摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は、居室やリビングでやっただいて。介助が必要な方は、職員が行っている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意があっても「トイレに行きたい」と伝えられない利用者がおられる。本人の発するサインや行動を職員が理解しており、トイレでの排泄が可能となっている。	できる限りトイレで排泄できるよう、排泄記録等を活用して利用者の生活リズムに沿った支援をしている。失禁時等の対応は、羞恥心や不安を軽減するために、さりげない誘導を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方に対しては、水分を多く摂るよう促したり、砂糖の代わりにオリゴ糖を甘味料として飲み物に入れたりしている。便秘薬の使用を最低限にして自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は入浴表を活用し2～3日おきに声をかけて入浴していただいている。拒否があった場合には時間をもう一度声かけを行う等している。パネルヒーターの設置で温度差があまりない。好みの入浴剤も使用できる。	入浴は週2～3回、利用者の体調を把握し、声掛け等を行い、支援している。入浴拒否者にはタイミングを図りながら声掛けをしている。季節に応じた入浴剤等も活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節や好みに応じた寝具を用意していただいている。就寝時間は特に決まっていない。お昼寝も自由に出来ている。室温は職員が管理し、快適に過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は職員が管理している。説明書は一か所にまとめてあり、いつでも見て確認する事が出来る。内服方法も様々で、能力に応じた方法で内服支援している。内服変更によって変化が生じる場合もあるので主治医と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人内の他事業所で開催されるイベントや、事業所独自のイベントに参加している。日常生活においても個人の残存能力を生かせるような簡単な作業やお手伝いをやっていただき、「出来た」という達成感を感じていただきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日常的に、買い物はご希望があれば出かけている。「お好み焼きが食べたい」と利用者から要望があり、他利用者数名と職員で食べに出掛けた。職員で対応出来ない場合はご家族にお願いしている。	日常的に近隣の公園や駅前を散歩をしている。利用者の状態に応じて職員が企画したり、利用者の希望、要望等を吸い上げ、家族の協力も得ながら外出支援している。	

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	娘様と手紙のやり取りをしている方がおられた。文面は職員が考えたものであったが、ご自分で便箋に書いて下さり、封筒の宛名は職員が書いて郵送していた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは南向きで明るく日当たりもよい。浴室やトイレは車椅子でも十分な広さになっている。浴室にはパネルヒーターが設置しており、温度差がなく入浴出来る。清掃にはマニュアルがあり、気持ちよく生活出来るよう努めている。掲示物は季節感のある作品と一緒に作成している。	事業所が2階にあるため、窓から外の景色を見渡すことができる。共用空間は五感の刺激に配慮し、飾り付けは生活感や季節感の感じられるものを活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食事を摂るテーブルの他ソファが置いてあり、眠っている方もおられる。廊下のベンチや窓際のスペースでくつろぐ時間もある。椅子の数が多いので、自由に座る事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使用していただいている。家具の配置やベッドの位置も使いやすいようにしている。持ち込む物にも特に制限はない。ご自宅同様にくつろげるよう、いつも座っていた椅子を持参された方もおられる。	ペット、箆笥、カーテン、照明器具類は備え付けで、寝具類の馴染みの物は自由に持ち込むことができる。写真を飾るなど、利用者それぞれの好みに合わせた居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、バリアフリー、ナースコールの活用等で安全面に配慮している。キッチンからリビング全体を見渡す事が出来る。リビングのテーブルは利用者の動線を考慮して配置している。		